はじめに

　現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、本当の外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる**のが、
古文のオイシイところです。

　さて、「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール」**です。（「読解のルール」の中には、**「古文常識」**や**「作品常識」**
といわれるものも含みます。）三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。
古文ができない、読めないという人のほとんどは、この「文法」と「単語」をおろそかにしてしまっています。
この講座は、この土台の一つである、**「文法」の入試に必要な知識を全十二回で身につけてしまう講座**です。
基本から説明をして、難関大といわれている大学の文法入試問題も解けるようにしていきますので、
「古文なんて大キライ」という人も、
「古文には多少自信があってさらに得意科目にしたい」という人も、
「嫌いかどうかすらわからないくらい、何ひとつ勉強していない」という人でも！
どんな人でも大歓迎です。
この講座で文法のコツをしっかりつかんで、是非、古文を得点源の科目にしてください！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。ノートも不要です。**テキストと筆記用具**さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。
書き込み用の色ペン（何色でも可。）とラインをひっぱる用のマーカーのペンをご準備ください。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。なお解答欄はありませんので、選択式問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。ちなみに、**〈例題〉はオリジナル問題**で、**「問題」は実際の入試問題**です。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。テキストに書いてあること全てが大事なことなのですが、特に**太字になっているところや空欄に自分で書き込んだところ**に関して、重点を置いて覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終わったら、後ろにある**「復習問題」**（全て入試問題で作成）を解きましょう。復習問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「復習問題」を解き直して下さい。

この「復習問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　動詞・形容詞・形容動詞……p.4
第二講　助動詞（活用と接続）／「き・けり」／「ず」／「たり・り」……p.16
第三講　「つ・ぬ」／「ぬ」・「ね」の識別……p.24
第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別……p.33
第五講　「む・むず」／「じ」／「らむ・けむ」……p.45
第六講　「らむ」の識別／「べし・まじ」／「まし」……p.54
第七講　２つの「なり」／「なり」の識別／その他の助動詞……p.64
第八講　係助詞／間投助詞／接続助詞(1)……p.74
第九講　接続助詞(2)／「て」の識別／格助詞……p.86
第十講　終助詞／副助詞／「し」の識別／呼応の副詞……p.99
第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別……p.113
第十二講　敬語……p.127

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　動詞・形容詞・形容動詞

★品詞＝十個（名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）

○**名詞＝「体言」**

○**動詞・形容詞・形容動詞＝「用言」**

★活用する品詞＝四個　※活用する＝形が変わること

「**動詞**」・「**形容詞**」・「**形容動詞**」・「**助動詞**」

★**活用形**＝六種類

「**未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形**」

○活用形を考える時は「　　」を見る。

活用形	下の語
未然形	ず
連用形	用言・けり・たり・て・、
終止形	。・」・引用の「と」
連体形	体言
已然形	ども
命令形	。・」・引用の「と」

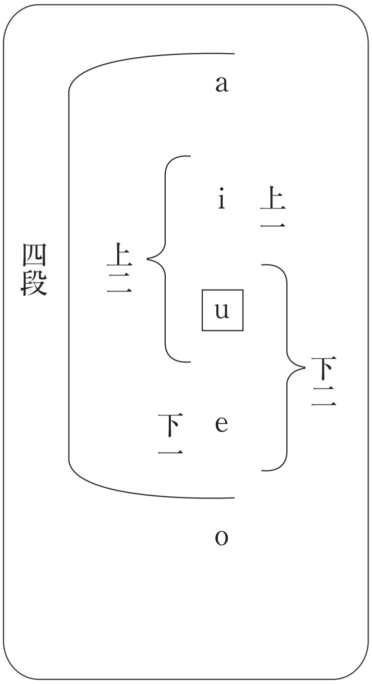
© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

動詞

★活用の種類＝九種類

「四段活用・上一段活用・下一段活用・上二段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用」

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ
カ行変格活用	こ	き	く	くる	くれ	こ（よ）
サ行変格活用	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格活用	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ



上一→下一＝i→け
上二→下二＝i→e

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★活用の種類の見分け方

①　覚えておくべきもの

上一段活用＝「**干(ひ)る**」「**射(い)る**」「**鋳(い)る**」「**着(き)る**」「**似(に)る**」「**煮(に)る**」「**見(み)る**」「**居(ゐ)る**」「**率(ゐ)る**」（「率**ゐる**」「顧**みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

カ行変格活用＝「**来(く)**」・「**～来**」（→「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

（※それ以外のサ変
○「**～す**」の「す」が「**する**」と訳せるもの　（例）「旅す」など
○「**～んず**」の形＝サ変が多い。　（例）「信ず」「案ず」「論ず」など
○「**漢字一音の音読み＋す**」　（例）「奏(そう)す」「具(ぐ)す」など）

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往(い)ぬ**」「**去(い)ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居(を)り**」「**侍(はべ)り**」「**いまそかり**」（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

②　①にないもの→「**ず**（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず→**四段**活用　（例）「咲く」→「咲**か**ず（咲**か**ない）」

i＋ず→**上二段**活用　（例）「起く」→「起**き**ず（起**き**ない）」

e＋ず→**下二段**活用　（例）「答ふ」→「答**へ**ず（答**へ**ない）」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	③カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	③マ行上一段活用

①「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をｕ段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

（例）現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

「受**け**ない」→「受**く**」

②「語幹」＝「基本形」―「終止形」の文字

（例）「咲く」―「く」＝「咲」が語幹

「見る」―「みる」＝語幹なし

③○行＝一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行　（例）「咲**く**」＝**カ行**四段活用

一段活用は基本形の「**る**」**の**「**上**」の文字の行　（例）「**見**る」＝**マ行**上一段活用

〔例題一〕「居る」の活用の種類を答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★歴史的仮名遣いにおける五十音図

ア行	あ		う		お
ヤ行	や		ゆ		よ
ワ行	わ		う		を

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

○射(い)る・鋳(い)る　＝　　行上一段活用
○**得**(う)・心**得**(こころう)・所**得**(ところう)　＝　　行下二段活用
○植(う)う・飢(う)う・据(す)う　＝　　行下二段活用
○老(お)ゆ・悔(く)ゆ・報(むく)ゆ　＝　**ヤ行**上二段活用

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→「訳し方の違い」がある。

- 四段＝そのまま訳す
- 下二段＝四段の意味＋「　　　」

（例）「入(い)る」

四段＝中にはいる。

下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる。

※入試頻出の「二種類ある動詞」三個

○**「被(かづ)く」**

四段＝かぶる・褒美をいただく

下二段＝かぶせる・褒美を与える

○**「頼む」**

四段＝頼みにする・あてにする

下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

○**「慰む」**

四段＝心が晴れる

下二段＝（心を晴れさせる→）慰める

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　頼りにして　　イ　期待させておいて　　ウ　なんとかして　　エ　ひたすらお願いして

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**〜し**」となる。

★活用の種類＝二種類

「**ク活用・シク活用**」

※見分け方＝「**なる**」をつける。「〜**く**なる」＝**ク**活用、「〜**しく**なる」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ク活用	白し	白	**く** から	**く** かり	**し** ○	**き** かる	**けれ** ○	○ かれ
シク活用	をかし	をか	しく しから	しく しかり	し ○	しき しかる	しけれ ○	○ しかれ

※「　　　　」には、**下に助動詞**がつく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★語幹用法→「訳し方」を覚える

○ **和歌中**　A（**を**）B**み**　＝「**AがBなので**」（例）瀬を早み＝川瀬の流れが速いので

※瀬＝①川の水が浅い所。↔淵（ふち）＝水のよどんで深いところ。

②川の流れのはやい所。

○ **あな**（「**あら**」もしくは「**単独**」）、語幹。＝「**ああ、〜。**」（例）あな、かま＝（ああ、やかましい。→）しぃっ、静かに。

形容動詞

性質や**状態**を表し、終止形が「〜**なり**」「〜**たり**」となる。

★活用の種類＝二種類

「**ナリ活用・タリ活用**」

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり	静か	なら	なり・**に**	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	堂々	たら	たり・**と**	たり	たる	たれ	たれ

※　連用形「　　・　　」には、**下に助動詞**がつく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次の傍線部①～③について、それぞれ基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適切なものを後の中から選べ。

「『あの法師　①捕らへよ』と、…」
「せむ方　②なかりければ、…」
「ある小家の　③あやしげなるに立ち寄りて、…」

＜活用の種類＞
a　四段活用　　b　下一段活用　　c　下二段活用　　d　ラ行変格活用　　e　ナ行変格活用
f　ナリ活用　　g　タリ活用　　h　ク活用　　i　シク活用

＜活用形＞
ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

①　　　・　　　・
②　　　・　　　・
③　　　・　　　・

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

音便

発音しやすいように、別の音に変化する現象のこと。

（例）書**き**て→書**い**て＝「**イ音便**」という。

【動詞】

○イ音便　「き・ぎ・し」→「い」

○ウ音便　「ひ・び・み」→「う」　（例）買**ひ**て→買**う**て

○**促音**便　「ひ・ち・り」→「**つ**」　（例）買**ひ**て→買**っ**て

○**撥音**便　「に・み・び」→「**ん**」　（例）飛**び**て→飛**ん**で

ラ行変格活用連体形活用語尾「**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など。）→「**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）あ**る**なり→あ**ん**なり→あなり

【形容詞】

○イ音便　「き」→「い」　（例）白**き**花→白**い**花

○ウ音便　「く」→「う」　（例）苦し**く**て→苦し**う**て

○撥音便　「か＋ラ変」の連体形活用語尾「かる・しか**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など。）→「**かん・しかん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）白か**る**なり→白か**ん**なり→白かなり

【形容動詞】

○撥音便　連体形活用語尾「な**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など。）→「**なん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）静かな**る**めり→静かな**ん**めり→静かなめり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　動詞・形容詞・形容動詞

① 「かはれども」の傍線部の活用形として正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

② 「心得て」の波線部の　１　活用の行　２　活用の種類　３活用形　はそれぞれ何か。該当するものを、次のア〜カの中から一つずつ選べ。

１　ア　ア行　イ　カ行　ウ　ハ行　エ　ヤ行　オ　ラ行　カ　ワ行

２　ア　四段活用　イ　上一段活用　ウ　上二段活用　エ　下一段活用　オ　下二段活用　カ　変格活用

３　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

③ 「死して」の傍線部の活用の種類として最適なものを次のア〜オの中から選べ。

ア　シク活用　イ　ナ行変格活用　ウ　ナ行四段活用　エ　サ行四段活用　オ　サ行変格活用

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④

「侍るとも」の傍線部と活用の種類が同じ動詞を、次のａ～ｅの傍線部の中から一つ選べ。

ａ　漏れ聞き候ふべく候ふ。

ｂ　嫌き誹りぬべからむこと、…

ｃ　心のうちも推し測らるるものにて候ふ。

ｄ　また、知る人、すずろに…

ｅ　花のやうに春ある人は、一盛り映えあるやうに…

⑤

「根を深み」の現代語訳として最も適当なものを一つ選べ。

1　根が深くなければ

2　根を深く掘り

3　根を深くすれば

4　根が深いだろう

5　根が深いので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　助動詞（活用と接続）／「き・けり」／「ず」／「たり・り」

助動詞

★【活用】

下二段型	**る・らる・す・さす・しむ・つ**
ラ変型	けり・たり・なり・めり・り　※**断定**の「なり」・「たり」は**形容動詞型**
無変化型	**じ・らし**
形容詞型	まほし・たし・べし・まじ・ごとし　（※「じ・らし・まし」以外の「～し・～じ」）
四段型	**む・らむ・けむ**
サ変型	むず
ナ変型	**ぬ**
特殊型	**ず・き・まし**

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず						○
	ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ
き		○				○
まし		○				○

↓下に「　　」がつく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**【接続】**（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四段已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「さらに来じ」の傍線部の読みを平仮名で書け。

問二　「忘れ［A］けり」の空欄Aにあてはまる「ず」の助動詞を適切な活用形にして書きなさい。

問三　次のA・Bの波線部の活用形は何か。後のア～カの中から一つずつ選べ。

A「心のどかに聞こえむ」
B「夫人の見けむ目のやうにはあらずとも…」

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

A＝　　B＝

問四　「人はいかにおもふらむ、…」の傍線部の活用の行、活用の種類、活用形をそれぞれ書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

き・けり

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	き							特殊型
形	け**り**	け**ら**	○	け**り**	け**る**	け**れ**	○	**ラ変**型

【意味】

○「き」　①「　　」過去（～た）→「　　」の経験

○「けり」①「　　」過去（～た・～たそうだ）→「　　」の経験

②詠嘆（～よ・～なあ）

※「けり」が**詠嘆**になる場合

1　「　　中」の「けり」

2　「　　**けり**」の「**けり**」

3　「べかり**けり**」の「**けり**」

4　**会話文**中の「けり」（↓文脈判断。**まず詠嘆**で訳す。おかしければ過去。）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　「合はせ［　a　］ども、…」の［　a　］に助動詞「き」を正しく活用させて入れよ。

問六　「いみじうつらき御心なり<u>けり</u>」の二重傍線部「けり」の助動詞は、文章中において同じ助動詞の他の用例とは文法的な意味が異なっているが、どのように異なるか。解答欄の形式に従って答えよ。

他の用例は〔　　　　〕の助動詞だが、ここは〔　　　　〕の助動詞である。

ず

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
未然形	ず						○	特殊型
		ざ**ら**	ざ**り**	○	ざ**る**	ざ**れ**	ざ**れ**	ざ＋**ラ変**型

【意味】

①　打消（〜ない）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たり・り

接続＼形	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型
	り	ら	り	り	る	れ	れ	ラ変型

【意味】

① 完了（～た）

② 存続（～ている・～てある）

〈見分け方〉

まず「　　　」で訳す。↓おかしければ「　　　」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　助動詞（活用と接続）／「き・けり」／「ず」／「たり・り」

① 次の波線部ａ・ｂの「来」の読みとして、正しいものを後の１〜５の中からそれぞれ選べ。

「ここに参り　来ａべかりければこそと、…」
「参り　来ｂむことのわりなかるべきこと」

１　こ　　２　き　　３　く　　４　くる　　５　くれ

② 次の空欄［Ａ］・［Ｂ］には助動詞「ず」が入る。それぞれにふさわしい形を後のア〜オの中から選べ。

「秀郷も後ろをかへりみ［Ａ］、はるかに行き隔たりぬ。」
「夢も結ば［Ｂ］仮寝の枕、…」

ア　ず　　イ　ざり　　ウ　ぬ　　エ　ざれ　　オ　ね

③ 「仰せ合せし**し**かば、人の亡び失せし事、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　可能　　カ　過去

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「鰐（わに）に食ひ切られたるなりけりと見る程に、…」の傍線部「けり」と同じ意味・用法の「けり」が使われている文を、次の1〜4の中から一つ選べ。

1　身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国もとめにとて行きけり
2　八重葎（むぐら）しげれる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり
3　野山にまじりて竹を取りつつよろづの事に使ひけり
4　いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講「つ・ぬ」／「ぬ」・「ね」の識別

つ・ぬ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	つ	て	て	つ	つる	つれ	てよ	下二型
形	ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	**ナ変型**

〔例題一〕 次の各文中の助動詞「ぬ」に線を引き、その活用形を答えよ。

① 月も暗うなり、雨も降り出でぬべきに、…

② 御簾の内へさし入れて出でられにけり。

③ 三人まで同じ様に恐れぬるに、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【意味】

①　完了（〜た）

②　強意（きっと〜・必ず〜）（＝確述用法）

〈見分け方〉＝「　　　　」を見る

②　**強意**になるとき

つ	**ぬ**

＋「　　　　」

※下枠参照

てむ　**なむ**　**てまし**　**なまし**　**てけむ**　**にけむ**　**つべし**　**ぬべし**　**つらむ**　**ぬらむ**

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題二〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① この使ひを失ひつらむ心憂さよ。

② いふかひなくて、ともに帰りぬ。

③ こはいかなる物を食はせつるぞ。

④ よその眠も覚めつべし。

⑤ 今は世の花も、盛り過ぎぬらむ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ぬ」・「ね」の識別

【識別対象】

1　「　　」の助動詞「ず」

2　「　　」「　　」の助動詞「ぬ」

3　ナ変動詞「　　・　　」の活用語尾

4　ナ行下二段動詞「**寝**（ぬ）」の一部

3　｛　＋　｝　ぬ　ね

4　「　　」と訳せる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	ず	ず	ず	ず	**ぬ**（四角囲み）	**ね**（丸囲み）	○	特殊型
		ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ	ざ＋**ラ変**型
形	ぬ	な	に	**ぬ**（四角囲み）	ぬる	ぬれ	**ね**（丸囲み）	**ナ変**型

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈「打消」と「完了」の見分け方〉＝「　　」→「　　」

①「　　」（＝接続）確認

1　**未然**形＋ ぬ　ね ＝「　　」

2　**連用**形＋ ぬ　ね ＝「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

②「　　」（＝活用形）確認

● 『ぬ』

1　ぬ＋連体形接続の語

連体形 ──→ ぬ

連体形＝「　　」

> **「打消」** ──→ ぬ＋体言

2　ぬ＋「　　」。（終止形接続の語）

終止形 ──→ ぬ

終止形＝「　　」

※ただし、文末の「ぬ」の時、**係助詞**と**疑問副詞**に注意！

文中に **係助詞「ぞ・なむ・や・か」** **疑問副詞（「いか系」「な系」）** がある→文末の「ぬ」は「　　」形→「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●『ね』

1　ね＋已然形接続の語

已然形＝「　　　　」

ねば
ねど（も）
こそ〜**ね**
} **打消**「ず」の已然形

2　ね＋「　　」。
命令形接続の語

命令形＝「　　　　」

※ただし、文末の「ね」の時、**係助詞「こそ」**に注意！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　ⅰ「今年はいまだ郭公こそ聞かね。」

ⅱ「さらばまことも汚れぬべしとて、～」

右記のⅰ・ⅱの傍線部「ぬ」「ね」の文法上の意味として、最も適切なものを次のａの中からそれぞれ選べ。
また、その活用形として正しいものを次のｂの中からそれぞれ選べ。

ａ　ア　過去　イ　打消　ウ　過去推量　エ　存続　オ　意志
カ　婉曲　キ　強意　ク　尊敬　ケ　推量　コ　当然

ｂ　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

ⅰ　ａ＝　ｂ＝　ⅱ　ａ＝　ｂ＝

問二　次の傍線部ア・イの「ね」について、例にならって文法的に説明せよ。（例）尊敬の助動詞「る」の連体形

「とくとく帰りね」（傍線部ア：ね）

「君がすみかをそこと知らねば…」（傍線部イ：ね）

ア＝

イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　「つ・ぬ」／「ぬ」・「ね」の識別

①　「うせさせ給ひぬるやうなる。」の波線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　命令　イ　断定　ウ　当然　エ　意志　オ　推量　カ　完了
キ　伝聞　ク　使役　ケ　尊敬　コ　禁止　サ　過去

②　次のア〜オの二重傍線部「ぬ」はいずれも助動詞であるが、一つだけ種類の異なるものを選べ。

ア　秋になりぬ。
イ　打松おどろおどろしからぬほどに置きて、…
ウ　うちとけぬさまにものをつつましと思したる気色、…
エ　恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ
オ　酔泣きのついでに、忍ばぬこともこそ

③　傍線部ア〜エの「ぬ」について、一つだけ他と用法の異なるものを選べ。

かなはでやみぬ（ア）と口惜しきに
分け行く道も見えぬ（イ）に、
鎌倉より二日にまかり聞きぬ（ウ）。
忍びて、また年も返りぬ（エ）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別

る・らる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の**未然**形	る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	下二型
それ以外の**未然**形	らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	下二型

※「　・　・　」の未然形＝「　」段＋る
それ以外の未然形＝「　」段＋らる

問一　次の二つのグループ（Ⅰ群、Ⅱ群）のうち、Ⅰ群からは、二重傍線部が助動詞「る」では**ない**もの、Ⅱ群からは、波線部が助動詞「らる」では**ない**ものを、それぞれア～エから一つ選べ。

Ⅰ　ア　たまへる　　イ　騒がれむ　　ウ　けしきどらるる　　エ　急がるる

Ⅱ　ア　ながめのみせられて　　イ　仰せられき
　　ウ　心もとながられ　　エ　仰せらるれど

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【意味】

① 受身（〜れる・〜られる）
② 可能（〜できる）
③ 自発（自然と〜される）
④ 尊敬（〜なさる・お〜になる）

〈見分け方〉

① 受身＝「〜に」がある。もしくは補える。
② 可能＝る・らる＋「　　」
③ 自発＝「　　」動詞 or 「　　」動詞 ＋ る・らる
④ 尊敬＝**主語が貴人**〜＋る・らる

尊敬語
給ふ＝（ら）れ
「　　」←「　　」か「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 涙のみすすみてよよと泣かる。

② さこそあらめなど、仰せらるれど、…

③ 限りなく遠く来にけるほども思ひ知らる。

④ 馬は、かならず人に乗らるべき器にて候へば、…

⑤ なかなかにいも寝られず、「これは夢か」とのみ…

⑥ 御簾の吹き上げらるるを、人々押へて、

問二　「よからぬものの世のたとひとか聞きしと思し出でられて」に用いられている助動詞をすべて抜き出し、それぞれの終止形と文法的意味を答えなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「る」・「れ」の識別

【識別対象】

1 「　」「　」「　」「　」の助動詞「る」
2 「　」「　」の助動詞「り」
3 活用語の一部

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	る	**れ**	**れ**	**る**	るる	るれ	れよ	下二型
	り	ら	り	り	**る**	**れ**	**れ**	**ラ変**型

〈見分け方〉＝「　」の「　」

1 「　」＋る・れ→助動詞「る」
2 「　」＋る・れ→助動詞「り」⇩※上が「　」と「　」の時、注意！
3 「　」＋る・れ→活用語の一部

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「松の木の枯れて朽ち残れるが立てる下に、…」の傍線「る」の文法的意味・用法と同じものを、次のうちから一つ選べ。

1　うらうらに照れる春日にひばりあがり心悲しもひとりし思へば
2　うつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔
3　いかめしき御堂ども建てて、多くの人なむ造り営み侍るめる
4　家の造りやうは夏をむねとすべし、冬はいかなる所にも住まる
5　明けぬれば暮るるものとは知りながらなほうらめしきあさぼらけかな

問四　「心の苦しみを知れれば、…」の波線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　受身　2　自発　3　可能　4　存続
5　推量　6　当然　7　意志　8　否定

問五　「しばしはここかしこもとむれども、…」の二重傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞の活用語尾　2　受身の助動詞　3　自発の助動詞
4　尊敬の助動詞　5　完了の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

す・さす・しむ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の**未然**形	す	せ	せ	す	する	すれ	せよ	下二型
それ以外の**未然**形	さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	下二型
未然形	しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	下二型

※「四段・ナ変・ラ変」の未然形＝「　」段＋す
　それ以外の未然形＝「　」段＋さす

【意味】

① 使役（～せる・～させる）
② 尊敬（～なさる・お～になる）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　　　」を見る。

「　　」＝す・さす・しむ＝「　　又は　　」

す
さす
しむ
＋「　　」＝給ふ・おはす（おはします）・らる

ない →「　　」
ある →「　　又は　　」

※真下に尊敬語がある場合→「　　　　」を確認

「人に」「人をやりて」「人を召して」「人に命じて」「人して（＝に命じて）」がある→「　　　　　　」

「人に」が補える→「　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　書きたるを御覧ありて、大いに笑はせおはしまして、…

②　それを、張らせてまゐらせむとするを、

③　御供なる右近大夫を召して、点しつけさせたまふ。

④　皇后宮聞かせ給ひて、いみじう喜ばせ給ふを、…

⑤　心にくき限りの女房、四五人ばかり候はせ給ひて…

※候ふ＝お仕えする

問六　次の波線部の文法上の意味として最も適切なものを、後の中から選べ。

「僧達近う候ひて、御念仏をして聞かせ奉る。」

ア　命令　　イ　断定　　ウ　当然　　エ　意志　　オ　推量　　カ　完了

キ　伝聞　　ク　使役　　ケ　尊敬　　コ　禁止　　サ　過去

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「せ」の識別

【識別対象】

1　使役・尊敬の助動詞「す」の「　　」形か「　　」形
2　過去の助動詞「き」の「　　」形
3　サ変動詞「す」の「　　」形

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
四段・ナ変・ラ変の未然形	す	**せ**	**せ**	す	する	すれ	せよ	下二型
連用形	き	**せ**	○	き	し	しか	○	特殊型
	動詞「す」	**せ**	し	す	する	すれ	せよ	

〈見分け方〉

1　上が「　　」形（「　　」段）＝助動詞「す」
2　「**～せ**　　～　　」の「**せ**」＝助動詞「き」
3　「　　」と訳せる「せ」＝サ変

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題三〉　次の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを後の選択肢の中からそれぞれ選べ。（重複使用可）

① いかさまにせむと沈み臥したまへるに…

② とらへてよませける。

③ 夢と知りせば覚めざらましを

④ 源氏の物語、人に読ませ給ひつつ…

ア　使役の助動詞「す」　　イ　尊敬の助動詞「す」
ウ　過去の助動詞「き」　　エ　サ行変格活用動詞「す」

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

問七　「世なりせば。」の波線部について、文法的に説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別

① 「思ひ知らるる事も侍り」の傍線部の文法上の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　可能　　カ　過去

② 「上（かみ）のその道を得たまへれば、…」の波線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　可能　　2　受身　　3　完了　　4　使役
5　尊敬　　6　自発　　7　婉曲

③ 「絵に描（か）ける御姿のおはするは、…」の二重傍線部の助動詞の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　受身　　2　可能　　3　尊敬　　4　打消
5　存続　　6　意志　　7　婉曲　　8　命令

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ 「生けるがごとし」の「る」と文法上同じものはどれか。最も適切なものを次の中から選べ。

1　めづらしき事をきこゆるものかな
2　よろづの遊びをぞしける
3　なほ奥つ方に生ひ出でたる人
4　うらうらに照れる春日にひばり上がり
5　我が身ひとつに限るべき事かな

⑤ 「この御堂造立の故に、地獄に落ちさせ給はん事こそ、あさましく侍れ」の傍線部の文法上の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　可能　　カ　過去

⑥ 「竟宴（きやうえん）といふこと、春日殿（かすがどの）にて行はせたまふ。」の波線の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　可能　　2　受身　　3　完了　　4　使役
5　尊敬　　6　自発　　7　婉曲

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講「む・むず」／「じ」／「らむ・けむ」

む・むず（＝「　・　ず」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	む	○	○	む	む	め	○	四段型
形	むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○	**サ変型**

【意味】＝「**スイカかえて**」

①　推量（〜だろう）
②　意志（〜よう）
③　勧誘（〜ませんか）
④　仮定（〜としたら）
⑤　婉曲（〜ような）
⑥　適当（〜するのがよい）

〈見分け方〉＝「　　　　」か「　　　　」に分ける。

○「　　　　」＝「仮定」・「婉曲」
○「　　　　」＝「推量」・「意志」・「勧誘・適当」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「**文中**」の「む」の意味

○　～む＋**体言**→「　　　　」

○　～む＋助詞→「　　　　」

★「**文末**」の「む」の意味→文脈判断。目安として**主語**確認。

○　**一**人称→「　　　　」

○　**二**人称→「　　　　　」

○　**三**人称→「　　　　」

※「　　　」**の上の「む」**→「　　　　　」が多い。

※「こそ～**め**」の「**め**」
「て**む**」の「**む**」
「な**む**」の「**む**」
＝「　　　　・　　　　」が多い。

※「**勧誘・適当**」の「む」の主語＝**必ず**「　　　　　」になる。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　「我もいかで、腰折れたらん雀見つけて、飼はん」と思ひて、…

②　海ならずたたへる水の底までもきよき心は月ぞ照らさむ

③　人の上に立たむこと、月を越ゆべからず

④　翁の、孫を見むと思ひけむは理なり

⑤　かまどなどは、歌に詠まむには卑しき詞なれど、…

⑥　とくこそ試みさせ給はめ。

⑦　人のけはひすれば、たれならむと思ふほどに、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一

「心澄まさむ人は見ぬべきさまなる」の意味として、最も適当なものを、次のア〜カの中から選べ。

ア　心を落ち着けようとする人は、きっと見るのがよい様子である
イ　心を落ち着けようとする人は、見なくてもよい様子である
ウ　心を落ち着かせている人は、きっと見るのがよい様子である
エ　心を落ち着かせている人は、見なくてもよい様子である
オ　心を落ち着かせた人は、きっと見るのがよい様子である
カ　心を落ち着かせた人は、見なくてもよい様子である

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

じ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	じ	○	○	じ	じ	じ	○	無変化型

【意味】＝「　　」の打消

① 打消推量（〜ないだろう）

② 打消意志（〜ないつもりだ）

〈見分け方〉＝主語確認

○**一**人称　→「　　」

○それ以外→「　　」

問二　「待つ人もあら<u>じ</u>と思ふ山里の梢（こずゑ）を見つつなほぞ過ぎうき」の傍線部の助動詞の文法的意味を答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

らむ・けむ（＝「ら　　・け　　」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	らむ	○	○	らむ	らむ	らめ	○	四段型
形	けむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段型

【意味】

〔共通〕

①　推量（～だろう）
②　原因推量（どうして～だろう）
③　伝聞（～とかいう）
④　婉曲（～ような）

〔違い〕＝「時制」

「らむ」＝「　　　　」
「けむ」＝「　　　　」

※共通の意味の上にそれぞれ時制を全て付け足す。訳もそれぞれ時制を加えて訳すこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉 ＝「　　　　」か「　　　　」に分ける。

〇「　　　　」＝時制＋「推量」・「原因推量」

〇「　　　　」＝時制＋「伝聞」・「婉曲」

★「　　　　」の意味の見分け方

〇見ている→「　　　　」

〇見ていない→「　　　　」

※　文中に、**「どうして～」と訳せる疑問語、係助詞「や」・「か」**がある場合→「　　　　」が多い。

〈例題二〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙さへなどとまらざるらむ

②　駒並べていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらめ

③　人違へにてぞあるらむ。

④　見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ

⑤　「この女、いかに思ふらむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「あらざりけん」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能

オ　断定　カ　伝聞推定　キ　完了　ケ　当然

問四　次の空欄A、Bには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして、記せ。

「かかる所にながめたまふ［A］心の中のあはれに、…」

一つ橋危がりて帰り来たり［B］者のやうに、わびしくおぼゆ

A＝

B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　「む・むず」／「じ」／「らむ・けむ」

①　「まだしからむ人は、いと思ひよりがたくや。」の波線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　可能　2　受身　3　完了　4　使役
5　尊敬　6　自発　7　婉曲

②　「我が行ひを五つ、六つ重ねたらんほどに行ふ者ありけり。」の二重傍線部の助動詞の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　受身　2　可能　3　尊敬　4　打消
5　存続　6　意志　7　婉曲　8　命令

③　「語り申させたまひけめど、…」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　婉曲　イ　伝聞　ウ　過去の推量　エ　過去の詠嘆　オ　勧誘

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　「らむ」の識別　／　「べし・まじ」　／　「まし」

「らむ」の識別

【識別対象】

１「　　　」の助動詞「らむ」
２「　　　」の助動詞「り」の「　　　」形＋推量の助動詞「む」
３「～ら」となる活用語の未然形＋推量の助動詞「む」

〈見分け方〉＝「　　　」の「　　　」

１　上が「　　　」段＝現在推量「らむ」
２　上が「　　　」段＝完了「り」＋推量「む」
３　上が「　　　」段＝活用語の未然形＋推量「む」
（他にも「取らむ」などのように、「ａ段だけではなく」「ｏ段」や「ｉ段」の場合もあるので、あくまで目安。）

※「はべらむ」や「けづらむ」などの例外にも注意！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【例題一】　次の傍線部の「らむ」の文法的説明として、最も適当なものを後の選択肢の中からそれぞれ選べ。

①　違ひはなからむと思ふなめれど、…

②　今はおはしぬらむとて、…

③　何をかたてまつらむ。

④　「～思ひはべらむこと」とわびたまへば…

⑤　なほその境に至らで詠めらむは無念なりとて、…

ア　助動詞「らむ」

イ　助動詞「り」＋助動詞「む」

ウ　活用語の未然形の活用語尾＋助動詞「む」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「知らざらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「む」の連体形
2　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「む」の終止形
3　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「らむ」の連体形
4　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「らむ」の終止形
5　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋詠嘆の助動詞「む」の終止形

問二　「行幸などもやあらむずらむ」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

イ　行幸などでもあるのかなあ　　ロ　行幸などがあればいいなあ
ハ　行幸などあるはずがないなあ　　ニ　行幸などもあったよなあ

問三　「都にも今や吹(ふ)くらむ秋風の身にしみわたる白河の関」の傍線部の文法的な説明をせよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

べし・まじ

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型	接続
べし	**べく** べから	べく べかり	べし ○	べき べかる	べけれ ○	○ ○	**形容詞**型	
まじ	**まじく** まじから	まじく まじかり	まじ ○	まじき まじかる	まじけれ ○	○ ○	**形容詞**型	

【「べし」の意味】　＝「スイカとめて」

①　推量（～だろう）
②　意志（～よう）
③　可能（～できる）
④　当然（当然～はずだ）
⑤　命令（～せよ）
⑥　適当（～するのがよい）

【「まじ」の意味】　＝「　　　　」の打消

①　打消推量（～ないだろう）
②　打消意志（～ないつもりだ）
③　不可能（～できない）
④　打消当然（～はずがない）
⑤　禁止（～するな）
⑥　不適当（～ないほうがよい）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈「べし」の意味の見分け方〉＝文脈判断。目安として**主語**確認。

○**一**人称→「　　　」

○**二**人称→「　　・　　」

○**三**人称→「　　　」

※**打消・反語**の文脈→「　　　」

※**比較・選択**の文脈→「　　　」

（例）家の作りやうは、夏を旨とす**べし**。

※「**べき由**（よし）」の「べき」→「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　この人々の深き心ざしは、この海にも劣らざるべし。

②　東の方に住むべき国求めにとて行きけり。

③　わが身は女なりとも、敵の手にはかかるまじ。

④　藤波の咲き行く見ればほととぎす鳴くべき時に近づきにけり

⑤　「人に聞かすな。人に漏らすまじ」と口固めけり。

⑥　二条殿へきと参るべきよし、仰せごととて、…

⑦　（和歌の船よりも）「作文のにぞ乗るべかりける」

問四　「いかがいらふべき」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　何と答えたらいいでしょうか。

b　何を答えることがありましょうか。

c　何かよい答えがありましょうか。

d　何と答えましたか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まし

接続	助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まし		○				○	特殊型

【意味】

① **反実仮想**（もしAならばBだろうに）

A
「　　」**せ**
「　　」
「　　」形
ば　B　**まし**

※「～**せ**ば～まし」の「**せ**」は「　　」の助動詞「　　」の「　　」形

② **ためらいの意志**（～ようかしら）

「　　」＋～**まし**

③ 仮想（～ならよかった）

④ 推量（～だろう）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題三〉　次の①・②をそれぞれ現代語訳せよ。

①　年つもるまであらましかば、げにいかばかり目に見えぬ鬼神をも動かしなまし。

②　いかにせまし

問五　「居まし」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

a　ア行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞

b　ア行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

c　ワ行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞

d　ワ行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　「らむ」の識別／「べし・まじ」／「まし」

①　「戒(いまし)められむずらむ」を単語に分けた場合、どのような分け方になるか。最適なものを次の中から選べ。

1　戒め／られ／むず／ら／む
2　戒めら／れ／む／ず／らむ
3　戒め／られ／むず／らむ
4　戒め／られ／む／ず／らむ

②　ア「侍るらむ」とイ「敷けらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

1　四段動詞＋助動詞
2　四段動詞＋助動詞＋助動詞
3　ラ変動詞＋助動詞
4　ラ変動詞＋助動詞＋助動詞
5　下二段動詞＋助動詞
6　下二段動詞＋助動詞＋助動詞

ア＝　　　　イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　「いかが他の力を借る［Ｉ］。」の空欄Ｉには「べし」を活用させたものが入る。
（１）空欄に入れるのに最も適当な語形と、（２）その活用形の種類を、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

（１）ア　べし　イ　べけれ　ウ　べき　エ　べく　オ　べかる　カ　べから　キ　べかれ
（２）ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

（１）＝　（２）＝

④　「この人にまさる<u>べから</u>ず。」の傍線部の助動詞の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　受身　2　可能　3　尊敬　4　打消
5　存続　6　意志　7　婉曲　8　命令

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　２つの「なり」／「なり」の識別／その他の助動詞

２つの「なり」

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	なり（断定・存在）	なら	なり に	なり	なる	なれ	なれ	**形容動詞型**
	なり（伝聞・推定）	○	なり	なり	なる	なれ	○	**ラ変型**

〈「断定・存在」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　　」＋あり

① 存在（～にある・～にいる）

※「　　　」**（方角）＋なる**（なりける）

② 断定（～である）

〈「伝聞・推定」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　　」＋あり

① 伝聞（～とかいうそうだ）

※人から聞いた噂などの場合

② 推定（～ようだ）

※「音」に関わる言葉がある場合

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題一〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　今年蔵司の小使にてまかり渡り候ひつるなり。

②　舟の内なる者ども、これが仕業を見るに、…

③　人々あまた声して来なり。

④　親の為思はぬなり。

「なり」の識別

【識別対象】

1「　　　」の「なる」

2「　　　」ナリ活用の活用語尾

3「　　　」・**存在の助動詞「なり」**

4「　　　・　　　」**の助動詞「なり」**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　」

1　「　　」と訳せる＝ラ行四段活用**動詞**「なる」
「　」「　」「　」「　」に付くことが多い。

2　「　・　」＋なり＝**形容動詞**ナリ活用の活用語尾
「　」「　」「　」に付くことが多い。

3　「　形」か「　形」＋なり＝**断定・存在の助動詞**「なり」

4　「　形」（ラ変型＝「　形」）＋なり＝**伝聞・推定の助動詞**「なり」

問一　次の傍線の「なり」を、文法的に分類した組み合わせとして、最も適当なものを左の中から選べ。

はかなく①なりし人の領ずる所にて、…
ある聖の物に②なりてと聞きしを、…
さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなか③なり。
露消えし跡は野原と④なりはててありしにも似ず荒れはてにけり

A　①と②③④　　B　①②と③④　　C　①②③と④
D　①②④と③　　E　①③④と②

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次の①～⑤の波線のうち、伝聞の意味を表す助動詞を一つ選べ。

①　須磨になりぬ。
②　家どもの、物はかなげなるに、柴垣うちしつつ、…
③　旅人の舟どもうかがふなる白波の寄り来る舟など繁しなど…
④　慌しく急ぎ過ぐるなるべし。
⑤　緑の松の年深くて、浜風になびきなれたる枝に、…

問三　次の傍線（１）（２）（３）の文法的な説明として、最も適当なものを後の中から選べ。

「事悪しく（１）なりなんかし」と思ふに、…
命も延びぬべき様し給へる人（２）なり。
聞き入れさせ給はざん（３）なりと承るを、…

Ａ　ラ行四段動詞　　Ｂ　形容動詞語尾　　Ｃ　断定の助動詞
Ｄ　伝聞の助動詞　　Ｅ　推定の助動詞

（１）＝　　（２）＝　　（３）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（応用編）

★ラ変型に付く「なり」

（例）　あるなり

★ラ変型「**撥音便**」に付く「なり」

（例）　あ［なり］↓［　　　］

※下枠参照

︷

（　　）［なり］↓「　　　」

※　様子
〜か［なり］

（例）　①〜③の中で仲間外れは？
①　渡らせ給ふべかなり。
②　心もしずかなり。
③　いと罪重かなり。

※　**な**［なり］
な［めり］

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**四段動詞**に付く「なり」

音声動詞＋[なり]→[　　　　]

（例）言ふ
泣く
鳴く
打つ
叩く
など

★「ばかり**なり**」
「～ば**なり**」
「かく**なり**」
「さ**なり**」
「しか**なり**」
の「**なり**」＝「　　　　」

★「**なり**けり」の「**なり**」＝「　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ後の選択肢の中から選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける なめり[A]」とぞ人言ふ なる[B]。

①　当然　②　伝聞　③　完了　④　回想

⑤　詠嘆　⑥　断定　⑦　婉曲　⑧　反実仮想

A＝　　B＝

問五　次の傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、後の１〜５の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。

（一部省略）

１　太政大臣になりたまふ

２　容体ほそやかにあてなりければ

３　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば

４　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり

５　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

めり・らし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	めり	○	めり	めり	める	めれ	○	**ラ変型**
	らし	○	○	らし	らし	らし	○	無変化型

【「めり」の意味】

①（「　　」判断による）推定（～**ようだ**）※語源＝「　　」＋あり

②婉曲（～**ような**）

【「らし」の意味】

①推定（～らしい）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まほし・たし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まほし	**まほしく** まほしから	まほしく まほしかり	まほし ○	まほしき まほしかる	まほしけれ ○	○ ○	**形容詞**型
形	たし	**たく** たから	たく たかり	たし ○	たき たかる	たけれ ○	○ ○	**形容詞**型

【意味】

①　希望（～たい）

ごとし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし	**ごとく**	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	**形容詞**型

【意味】

①　比況（～ようだ）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　２つの「なり」／「なり」の識別／その他の助動詞

①「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能
オ　断定　カ　伝聞推定　キ　完了　ク　当然

②次の二重傍線部の助動詞「なり」のうち、一つだけ他と意味の異なるものを選べ。

ア　祈るなり　イ　所なり　ウ　あなれ　エ　来たるなり　オ　親なり

③傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の中から選べ。

「～聞かせ奉らむ」と言ふ めれ(A)ば、いま一人、「しかしか、いと興ある事 なり(B)。…」

ア　完了　イ　推定　ウ　断定　エ　伝聞　オ　尊敬

A＝　B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　係助詞／間投助詞／接続助詞(1)

係助詞（ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も）

★「係り結びの法則」

○ぞ・なむ・や・か→「　　　」形

○こそ　　　　　　→「　　　」形

〔例題一〕　傍線部の係助詞に対応する結びの語を抜き出し、その終止形を書け。

① さることやありし。

② これやわが求むる山ならむ。

③ ことば多からぬこそ、飽かず向かはまほしけれ。

④ 心なむまさりたりける。

⑤ 花こそ咲けれ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「意味」**

○ぞ・なむ・こそ→「　　・　　」※訳出不要

○や・か→「　　　　」

※　後ろに答えが**有**＝「　　」

　　〃　　**無**＝「　　」

※「　・　」＝**反語**が多い

※「〜　。」・「〜　。」＝**反語**（←**和歌**で多用）

〔例題二〕「いづこの御いらへかはあらむ」の現代語訳として正しいものを次の中から選べ。

1　どのように御返事申し上げようか

2　どなたに御返事したらよいか

3　もちろん御返事などあるわけがない

4　どうしてこんな御返事をなさるのだろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「誘はれざりけるこそ、口惜し［A］」の空欄Aに入る最も適切な語を、次の中から一つ選べ。

ア　からむ　　イ　らむ　　ウ　けれ　　エ　なむ　　オ　べし

問二　「などかは承らざらん」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　どうしてもお引き受けいただけないでしょうか。
2　どうしてお引き受けしないことがありましょうか。
3　どうしても認められないわけではありません。
4　どうして信用していただけないのでしょうか。
5　どうして納得していただけないのでしょうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「結びの省略」**＝係助詞の「　　」の**一文字**確認

○**に**＋{ぞ／なむ}。→「　　」を補う

○**に**＋{や／か}。→「　　」を補う

○**に**＋こそ。→「　　・　　」を補う

○**と**＋係助詞。→「（　　）・（　　）」を補う

★**「結びの流れ（消失・消滅）」**　本来結びとなる語に、接続助詞などが付いて、結びがなくなり先へ続いていくこと。

（例）この男の位**ぞ**まだいと浅けれど、三位の中将にて侍り。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「袖をひろぐるわざをし侍るにこそとうち思ひて…」の傍線の係助詞「こそ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

1　あらめ　　2　あはれめ　　3　つつめ　　4　ながめ　　5　ならめ

問四　「表（うへ）の御袴（はかま）の裾（すそ）を荒らかにひかせたまふ折ぞ、おどろかせたまひて、さる御用意はならはせたまへれば、御櫛（くし）・笄（かうがい）具したまへりける取り出でて、つくろひなどして、おりさせたまひけるに、いささかさりげなくて、清らかにてぞおはしましし。」の二重傍線部の係助詞の結びの説明として、最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　結びは流れている
イ　結びは省略されている
ウ　結びは「し」である
エ　結びは「に」である
オ　結びは「ば」である

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「逆接強調法」

「文中」の「こそ…已然形**、**〜」→ 訳出の時に「…　　　　、〜」などの「　　　　」を補う。

★「危惧の用法」

○もぞ
○もこそ
＝「〜したら　　　　・　　　　」と訳す。

問五　「よろしうこそ思ひ聞えつれ、いとあさましかりけることかな。」の傍線部を現代語訳せよ。

※聞ゆ＝「〜申し上げる」と訳す

問六　「人にもこそ会へ」の解釈として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夫にぜひとも会おう　　イ　人に会ってはまずい
ウ　夫に会えればかまわない　　エ　人に会って来なさい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七「風邪などもこそ引かせ給へ」を「もこそ」の意味に注意して現代語訳せよ。　※給ふ＝「～なさる」と訳す

間投助詞（や・よ・を・こそ）

★「こそ」の意味

① 呼びかけ（～さん）

「人物 **こそ。**」

★「や」・「よ」・「を」の意味

① 詠嘆（～なあ）

② 強調（訳出不要）

③ 呼びかけ（～よ）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

接続助詞⑴（ば・とも・ど・ども）

★「ば」の用法＝「　　接」

○「　　　」形＋ば＝　　　条件
（　　　〜　　　）

○「　　　」形＋ば＝　　　条件
原因・理由＝（　　　・　　　）
偶然　　　＝（　　　・　　　）
恒常　　　＝（　　　　　　）

問八　傍線部「ば」と意味用法が同じものを次の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　「まろも世にあらばこそあらめ、…」の内容として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　私も死んでしまうだろうが、仮に私が生きながらえたとしても。
ロ　私もいずれ死んでしまう定めにあるが、私の後生を弔うために。
ハ　私も俗世を生き抜いたとして、あなたも生きつづけるとすれば。
ニ　あなたも亡くなってしまうならば、あなたの後生を弔うために。
ホ　あなたも出家していたので、私も早く出家の身となろうとして。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「とも」の用法＝「　　接」

「　　」形＋とも＝　　条件

（　　〜　　）

★「ど・ども」の用法＝「　　接」

「　　」形＋ど・ども＝　　条件

問十　「得るとも」は、古典文法の標準に合わない。適切なかたちにすべて平仮名で書け。

問十一　次の二重空欄Ａ・Ｂには接続助詞が入る。Ａ・Ｂをうめる組合せとして最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

「大弐（だいに）の居所ははるかなれ［Ａ］、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ［Ｂ］、鐘の声を聞こしめして、…」

1　ども・ば　　2　ば・ども　　3　ども・とも　　4　ば・とも　　5　とも・ば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　係助詞／間投助詞／接続助詞(1)

①「その夜は起きあがるべきかは。」の傍線部の文法的な意味として最もふさわしいものを、次の中から一つ選べ。

ア　詠嘆　　イ　婉曲　　ウ　強調　　エ　反語

②「左衛門の陣などの方にや」の後に補う言葉として最適なものを次の中から選べ。

1　ありけむ　　2　ありけめ　　3　あるべし　　4　あれ

③「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から選べ。

ア　来める　　イ　あらん　　ウ　参らばや　　エ　あらじ　　オ　多かりし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ 「殿のうちをだに人あまたしてこそ歩きたまへ、ただひとところ帰りたまふに、…」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

1　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるので
2　屋敷の中までも人を大勢連れてお歩きになれば
3　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きにならなければ
4　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるのに
5　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きください

⑤ 次のア〜オに含まれる「ば」の中で、他と異なる用法のものを一つ選べ。

ア　のたまはすれば　　イ　明けぬれば　　ウ　近ければ　　エ　あらば　　オ　聞こゆれば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　接続助詞⑵　／　「て」の識別　／　格助詞

接続助詞⑵（て・で・に・を・つつ・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★「て」の用法＝単純接続

「　　　　」形＋て

★「で」の用法＝「　　　　　」接続

「　　　　」形＋で

（～　　　　　　）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の①〜⑤の傍線部には、「で」とすべきところを、誤って「て」としたものが一つある。誤っているものを選べ。

①　何わざにつけても
②　日の出でてやうやう南にめぐり給へば、
③　さらにかなはて、
④　思ひ乱れてこそ侍りけめ
⑤　さだめて彼の御国にこそは

問二　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて
イ　見せられて
ウ　見えず
エ　見せないで
オ　見えて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「に」・「を」の用法**＝①順接（～ので・から）　②逆接（～のに・けれど）　③単純接続（～ところ・と）

「　　」形＋に・を

★**「つつ」の用法**＝①反復（～ては）　②継続（～し続けて）

「　　」形＋つつ

★**「ながら」の用法**＝①逆接（**～のに**）　②同時（**～ながら**）　③**そのまま**　④**全部、～中**

〔例題一〕　次の傍線部の訳を、後の選択肢の中から選べ。

①　身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

②　すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③　涙にむせびながら申すやう…

④　「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア　～のに　　イ　～ながら　　ウ　～のまま　　エ　全部、～中

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「ものの」の用法＝逆接（〜のに）**

「　　　　」形＋ものの

★**「ものから・ものゆゑ」の用法＝①逆接（〜のに）**　②順接（〜ので）

「　　　　」形＋ものから／ものゆゑ

★**「ものを」の用法＝①逆接（〜のに）**　②順接（〜ので）　③〈終助詞として**文末で**〉詠嘆**（〜のになあ）**

「　　　　」形＋ものを

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「て」の識別

【識別対象】

1　接続助詞「て」
2　完了の助動詞「つ」の「　　　」形か「　　　」形

〈見分け方〉＝「　　　」に「　　　」が**有る**か**無い**かを確認。
（＊上〔＝接続〕はどちらも連用形）

1　「　　　」＝接続助詞「て」
2　「　　　」＝完了の助動詞「つ」
※例外　「**てば**」「**てばや**」の「**て**」は「　　　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★「の」の用法

① **主格**（＝〜　　　　）
　体言の…用言

② **連体（修飾）格**（＝〜　　　　）
　体言の…体言

③ **同格**（＝〜　　　　）
　体言の……［　　　　形］〜〜〜。

　（例）白き花**の**小さきあり。

④ **準体格**（＝〜　　　　）

⑤ **連用（修飾）格**（＝〜　　　　）

○「　　　」中の「の」で「〜　　　　」と訳せる。
○「　　　」の「の」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

※同格の「が」

連体形**が**……連体形〜〜〜。　→　各連体形の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）いとやむごとなき際にはあらぬ**が**、すぐれて時めき給ふありけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題二〉 次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢の中から選べ。

① いかなれば四条大納言のはめでたく、兼久がはわろかるべきぞ。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 惟喬の親王、例の狩しにおはします供に、馬の頭なるおきな仕うまつれり。
④ 月のおもしろかりける夜、みそかに御息所たちの御曹司どもを見歩かせたまひけり。
⑤ 夢に、いと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問三 「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の二重傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次の①〜④の傍線を施した「の」のうちから一つ選べ。

① この姫君ののたまふこと
② 男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、
③ 箱の虫どもを取らせ、
④ よろづのもとどもをたづねて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「より」の重要な３つの訳

①　経由（＝〜　　　　）

　　起点（＝〜から）で訳せた時、注意！

（例）木の間より洩り来る月の影

②　即時（＝〜　　　　）

「　　　」形＋より→「即時」から考える。

（例）名を聞くより、やがて面影は推しはからるる心地するを…。

③　手段・方法（＝〜　　　　）

「　　**手段**」が多い。

※「　　　」（＝徒歩で）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部と同じ用法のものを次の中から選べ。

徒歩よりまうでけり。

1　神代より　吉野の宮に　あり通ひ

2　つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに

3　我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ

4　家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「して」の重要な3つの訳

①　手段（＝〜　　　　　）

②　共同（＝〜　　　　　）

③　使役の対象（＝〜　　　　　）

（例）人して、惟光召させて…

〔例題三〕　次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢から選べ。

①　御使ひして申させ給ふ。

②　長き爪して眼をつかみつぶさむ。

③　むつまじき四五人ばかりして、まだ暁におはす。

ア　手段　　イ　共同　　ウ　使役の対象

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「にて」の用法

①　場所・時間
②　時刻・年齢
③　手段・方法
④　原因・理由
⑤　**資格・状態（〜として・〜で）**

（例）ただ人にておほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなること。

※「にて」の識別

体言
連体形　}＋にて

（例）四位ばかりにて失せにし人の子なり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　接続助詞⑵／「て」の識別／格助詞

①　「ものも言ふで帰りぬ。」の「言ふ」の活用形として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

1　言は　　2　言ひ　　3　言ふ　　4　言へ

②　次の傍線部と文法的意味が同じものを、後の中から選べ。

いみじう若うをかしげなる男の、烏帽子・直衣なるが、物も覚えず泣き惑ふさま、…

イ　頭白き女の水汲めるなむ、前よりあやしきやうなる家にいりける

ロ　世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

ハ　そこらの人の誇り、恨みをも、はばからせ給はず

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　終助詞　／　副助詞　／　「し」の識別　／　呼応の副詞

終助詞

【　　　　】ばや・てしがな・にしがな／なむ／もが・もがな・がな
【　　　　】かし
【　　　　】そ・な
【　　　　】かも・かな・か・も・な・や

★願望

〈　　　　願望〉＝〜たい

「　　　　」形＋ばや

「　　　　」形＋｛てしがな／にしがな｝

〈　　　　願望（＝あつらえ）〉＝〜てほしい

「　　　　」形＋なむ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈**状態願望**〉＝〜があればなあ・〜がいればなあ・〜であればなあ

種々の語＋{もが／**もがな**／がな}

★**念押し**＝「　　・　　」

※「ぞ**かし**」（＝〜だよ・〜だね）の形

★**禁止**＝〜するな

※「　　　」〜**そ**（＝〜してくれるな）

※「　　　」〜**な**（＝決して〜するな）

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一「『初音の勝負をし侍らばや』と申し出だしたれば、…」の傍線部の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　この御所では初めてだが、「郭公」という曲で楽の音を競う勝負をしてはどうだろう。
イ　どちらが先に、今年初めての郭公の鳴き声を聞くか、勝負をしたいものでございます。
ウ　院御所では今春初めて、「郭公」を題とする朗詠の勝負をするとお聞きしましたが。
エ　北山殿にて、この夏初めての郭公の鳴きまね勝負をするべきではないでしょうか。
オ　誰が初めに郭公を鳴かせることができるか、勝負をするよう、お命じになってはいかがですか。

問二「迷はざらなむ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

1　迷わないだろう　　2　迷うはずはない
3　迷うことであろう　　4　迷うことがあろうか
5　迷わないでもらいたい

問三「もの知らぬこと［x］のたまひ［y］」が禁止を意味するように、［x］と［y］に適切なひらがなを一字ずつ書け。

x＝　　　y＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　　）
すら	類推（〜　　　）
さへ	添加（〜　　　）

※「だに」には**限定用法**（＝　　〜　　　）もある。

〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　　」を見る。

限定用法 ⇒ **だに**＋〜「　　　」・「　　　」・「　　　」・「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「類推」の構文

[A]（サエ）**だに**　[B]
すら
「（　　）」
[C]　はなおさら　[　　]

〈例題一〉 次の文章は、『浜松中納言物語』の一節である。主人公中納言は唐の国にわたり、そこで厚遇を受ける。これを読んで後の問に答えなさい。

〈中略〉「わが世にてだに、さやうの事思ひ寄らざりしを、まいて知らぬ世界に、さるふるまひをし出でたらんに、…

問　傍線部の解釈として、最も適当なものを左の中から選べ。

A　日本にいたときでさえ、どこかに婿入りするようなことは考えもしなかったのに
B　わたしが皇位に就いたとしても、大臣のむすめと結婚するとは思いもつかないのに
C　自分が統治する日本でさえ、母国に帰るのを許さないなんて想像もできなかったのに
D　わたしたち夫婦の間でも、子どもを生んで自分の血筋を残すことなど考えなかったのに
E　自分が結婚していたときでさえ、子どもをおいていなくなることなど思いも寄らないのに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「跡をだに形見に見むと思ひしを…」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

A　屋敷の様子だけでも見て、資盛をしのぶよすがとしようということ。
B　屋敷の様子を見て、ある聖の手に渡ってしまったことを実感したこと。
C　屋敷の様子を見て、資盛と別れたときのことを思い出したということ。
D　屋敷を訪れて、資盛がまだ生きているような気がしていること。
E　屋敷を訪れて、ある聖の手に渡ったときのことを思い出したこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「し」の用法＝「　　　」

①「**し**　　」・「**し**　　」

②「Ａ**し**Ｂば」

③「Ｖと**し**Ｖ」　※同じＶ

「し」の識別

【識別対象】

１　サ変動詞「　　」の「　　　」形

２　過去の助動詞「　　」の「　　　」形

３　「　　　」の副助詞「し」

〈見分け方〉

１「　　」と訳せる＝サ変動詞

２「　　」形＋**し**＝過去の助動詞「き」

３「し」を省いても文意が通じる。＝副助詞　※副助詞「し」の用法①〜③参照。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　「日ごろより聞きおよびしゆゑに、…」の傍線部と文法的に同じものはどれか。次の中から一つ選べ。

イ　そのむくいをほどこしたまふなり。
ロ　外の事を聞き入れずして、…
ハ　成人してのちに、はたして令尹といふ官人になれり。
ニ　駿馬をうしなはれし時、…
ホ　照名とてあきらかなる名があらはれて、天下にかくれなし。

問六　「歌など学問しけるとぞ聞こえし。」の傍線部ア・イ「し」の文法的な違いについて説明しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

呼応（陳述）の副詞

★禁止

「　」～そ＝～するな（～してくれるな）

ゆめ（ゆめ）
かまへて
あなかしこ
｝～｛
そ
な
べからず
＝決して～するな

★不可能

「　」～打消＝～できない

★その他の打消系統

「　」知ら**ず**＝さあ、どうだかわからない

「　」～「　」＝まさか～ないだろう

★全否定

「　」
「　」
「　」
「　」
おほかた
たえて
つやつや
かけて
あへて
｝～打消＝
全く～ない
全然～ない
決して～ない

★弱い否定

いと
いたく
｝～打消＝**たいして**～ない

「　」～打消＝
めったに～ない
ほとんど～ない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★その他

○　**いかで（か）**～
- 推量＝**【疑問】**「どうして～だろう」／**【反語】**「どうして～だろうか、いや、～でない」
- **願望・意志**＝「　　　～したい・しよう」

○　**いつしか**～**願望**＝「　　　～　したい・してほしい」

○　かまへて～
- 禁止＝「　　　～するな」
- 命令・意志＝「　　　～せよ・しよう」

○　はやく～けり＝「なんと実は～だったよ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　「花ならばしばし［C］散りそ木の下を」の空欄Ｃには、ひらがな一字が入る。最も適切な語を記せ。

問八　「さらにえ見いでず」を現代語に訳すとどうなるか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　まったく見つからない
②　いまさら見つけることができようか
③　どうしても見つけなければならない
④　いっそう見つけようと努力した
⑤　ことさら見るのも嫌である

問九　「うち嘆きて、［A］なほ消え失せぬるわざもがな、と嘆く。」の空欄Ａに入る最も適当な語を、次の中から選べ。

イ　あへて　　ロ　いかで　　ハ　いとど　　ニ　さらに　　ホ　なかなか　　へ　また

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　終助詞／副助詞／「し」の識別／呼応の副詞

①「人はよきほどのしまひあらばや。」の傍線部の用法としてふさわしいものを、次の中から一つ選べ。

ア　疑問を表す　　イ　意志を表す　　ウ　推量を表す　　エ　願望を表す　　オ　勧誘を表す

②「ひとことなおとし［A］」の空欄Aには、禁止の意味を表す終助詞が入る。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　ばや　　イ　そ　　ウ　なむ　　エ　かし　　オ　ぞ

③「見てけりとだに知られんとおもひて書きつく。」の傍線部の解釈として最も適切なものを一つ選べ。

1　私が見たのかどうかと不安を感じさせよう
2　私が見たことを知らせて後悔させよう
3　私がたしかに見たことだけは悟らせよう
4　私が見たかもしれないと思わせておこう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④

「思ひよそへつべからむ人をだに見出でてしがな」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ぜひその人への思いに引き比べられそうな人なりと見つけ出したい
イ　無理にでもその人に似ているはずの人に探し出してもらいたい
ウ　何とかほかから愛情を移せそうな人を探し出したいものだ
エ　せめてその人になぞらえられるような人でも見つけ出したい

⑤

「生き給ひたりし時、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　接続助詞の一部　　イ　副助詞　　ウ　過去の助動詞「き」の連体形
エ　形容詞の活用語尾の一部　　オ　サ行変格活用動詞の連用形　　カ　サ行四段活用動詞の連用形活用語尾

⑥

打消の語と呼応して不可能の意味を表す副詞として最も適当なものを次の中から選べ。

1　さらに　　2　よも　　3　な　　4　え

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑦　「さらにそのほかのものも食はずありければ、…」の傍線部の意味として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ますます　イ　まったく　ウ　たいてい　エ　ふつうは　オ　ほとんど

⑧　「いつしか梅咲かなむ」の「いつしか」の意味として適切なものを次の中から選べ。

1　いつの間にか　2　はやく　3　もはや　4　いったいいつか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別

「なむ」の識別

【識別対象】

1　「　　」の終助詞「なむ」
2　「　　」の助動詞「ぬ」の「　　」形＋推量の助動詞「む」
3　ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4　「　　」の係助詞「なむ」

〈見分け方〉＝「　　」

1　「　　」形＋なむ＝他者願望（＝あつらえ）の終助詞「なむ」
2　「　　」形＋なむ＝完了・「　　」の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」
3　「　　なむ」・「　　なむ」・「　　なむ」＝ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4　1〜3以外＝強意の係助詞「なむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★注意すべき「なむ」

○「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

○「しなむ」の場合

「し」が「　　　」と訳せる＝サ変「す」連用形→「　　　　」

「し」が「　　　」の意味→ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量

○「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

連用形

～～～ ＋ **なむ** ＝ **係助詞**

○「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題一〕　次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

①　いと憚り多くなむ。

②　宣旨の使、ここにて死なばかへりて罪かうぶりなむ。

③　身の死なむも、もろともに見たまへかし。

④　深き心を人は知らなむ。

⑤　あはれなりつる心のほどなむ忘れむ世あるまじき。

ア　他者願望の終助詞

イ　強意の係助詞

ウ　完了の助動詞＋推量の助動詞

エ　ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞

①＝　②＝　③＝　④＝　⑤＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「君が宿にてかへらざらなむ」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あなたの所へ帰っていきたい。
イ　あなたの所へ帰っていくだろう。
ウ　あなたの所へ帰らないでいたい。
エ　あなたの家で孵化（ふか）してほしい。
オ　あなたの家で孵化するだろう。
カ　あなたの家で孵化しないでほしい。

問二　「さることはありなむや、隠いたまひてけむ」の現代語訳として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　そういうことであってほしい、お隠しになっただろうか
イ　そんなことがあるだろうか、お隠しになったのだ
ウ　そういうことであってほしい、きっとお隠しになっただろう
エ　そんなことがあるだろうか、きっとお隠しになっただろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ばや」の識別

【識別対象】

1　「　　　」の終助詞「ばや」

2　接続助詞「ば」＋係助詞「や」

〈見分け方〉

1　「　　　」形＋ばや（　　　）＝自己願望の終助詞「ばや」

2　「　　　」形＋ばや（　　　）＝接続助詞「ば」**仮定**条件＋係助詞「や」

3　「　　　」形＋ばや＝接続助詞「ば」**確定**条件＋係助詞「や」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題二〉　次の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを後の中から選べ。

①　久方の月の桂も秋はなほもみぢすればや照りまさるらむ

②　いましばしもあらばやと思へど、明くれば、ののしりて出だし立つ。

③　心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

ア　自己願望の終助詞

イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞

ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞

①＝　　②＝　　③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「に」の識別

【識別対象】

1　**形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2　**ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3　**完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4　**断定の助動詞「なり」**の連用形
5　**格助詞**の「に」
6　**接続助詞**の「に」
7　**副詞・副助詞**の一部　↓　「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　」→「　　」

1　「　　・　　」＋に＝**形容動詞**

「　　」「　　」「　　」＋**に**　の形が多い。

2　**に**　の「**に**」＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

3　「　　」形＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※　**に**＋　　　の形が多い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　「　　　」＋に
- **断定**の助動詞　※参照
- **格助詞**（「である」と訳せない）

※**断定**

○ **に**＋（助詞）＋

○ **に**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5「　　」形＋に
- **断定**の助動詞 → 4の「※断定」と同様なので、そちらを参照のこと。
- **格助詞**
- **接続助詞**

※格助詞

連体形＋に　述部

※接続助詞

連体形＋に、‖〜

⇒ ので／のに／ところ　で訳せる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　次のa～eの「に」の説明として、最も適当と思われるものを、後のア～オからそれぞれ選べ。

「この所を見る[a]に、憂き世ながらかかる所もありけりと、～」
「ここかしこ[b]に鈴の音などを聞くにつけても、～」
「雲居遥か[c]に心を送るしるべとぞなりにける。」
「思ひしづむる時なき[d]にしもあらねば、～」
「なほ思ひ慣れ[e]にし夕暮れの眺めにうち添ひて、～」

ア　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　イ　単純な接続を表す接続助詞　　ウ　形容動詞の活用語尾
エ　断定の助動詞「なり」の連用形　　オ　場所を表す格助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問四　「思へるにや。」に含まれる助動詞「る」「に」の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　「る」は自発、「に」は完了　　2　「る」は自発、「に」は断定
3　「る」は受身、「に」は完了　　4　「る」は受身、「に」は断定
5　「る」は存続、「に」は完了　　6　「る」は存続、「に」は断定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　次の二重傍線部ａ～ｄ「に」の文法的説明の組み合わせとして、最適なものを後の中から選べ。

「あるじの使ひ[a]にて、石の帯を人に借りて、…」
「心のうち推し量る[b]に、まことにさぞ悲しからむ」
「元の帯[c]にはあらねども、むなしく失ひて…」
「手をすりて、とりてまかり[d]にけり。」

1　ａ　断定の助動詞の連用形　ｂ　接続助詞　ｃ　格助詞　ｄ　動詞の連用形活用語尾
2　ａ　格助詞　ｂ　格助詞　ｃ　格助詞　ｄ　完了の助動詞の連用形
3　ａ　断定の助動詞の連用形　ｂ　格助詞　ｃ　断定の助動詞の連用形　ｄ　形容動詞の連用形活用語尾
4　ａ　格助詞　ｂ　接続助詞　ｃ　断定の助動詞の連用形　ｄ　完了の助動詞の連用形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別

①「～よきは短くてあらなん。」の二重傍線部「なん」の文法的解説として、最も適切なものを次から選べ。

1　詠嘆の終助詞
2　ナ変動詞＋推量の助動詞
3　他者願望の終助詞
4　強意の係助詞
5　強意の助動詞＋推量の助動詞

②「良かりなむ」とあるが、その文法的説明として最も適当なものを左の中から選べ。

1　形容詞「良し」の命令形＋終助詞「なむ」
2　形容詞「良し」の連体形＋係助詞「なむ」
3　形容詞「良し」の未然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋終助詞「なむ」
4　形容詞「良し」の連用形＋禁止の終助詞「な」＋推量の助動詞「む」の終止形
5　形容詞「良し」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③

「思ひなしにや、〜」の二重傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次の中から選べ。

1　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず
2　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも
3　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ
4　鬢は失せにたれば、ひたぶるになし
5　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり

④

「おはしましぬ。」の「ぬ」と文法的に同じものを、次のア〜エの中から一つ選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

⑤

次のア〜オの二重傍線部の中から、一つだけ文法的に異なるものを選べ。

ア　「〜御心も通ひぬべきを…」
イ　「〜老人御方に入りたまひにけり。」
ウ　「今宵この人々にや食はれなんと思ふも…」
エ　「男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。」
オ　「中将、言ひわづらひて帰りにければ、…」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　敬語

★敬語の種類＝尊敬語・謙譲語・丁寧語

★本動詞と補助動詞

○**補助動詞**の型

①　　＋**V**

（例）書き**奉る**

※形容詞・形容動詞＋**V**のVは、「あり」の意味の動詞の場合

※用言＋助動詞＋**V**もある。

（例）書かせ**給ふ**

②　　＋　　＋**V**

（例）書きて**侍り**

③　　＋（　　）＋

（例）女房に（て）**候ふ**

「　　　」の意味の動詞
おはす
おはします
侍り
候ふ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★それぞれの補助動詞と訳

○

語＝

給ふ（　　　　　）
おはす
おはします

（訳）「～　　　」・「　　　～　　　」

○

語＝

奉る
申す
聞こゆ
参らす
給ふ（　　　　　）

（訳）「（お）～（し）　　　」・「　　　～　　　」

○

語＝

侍り
候ふ

（訳）「～　　　」・「～　　　」・「～　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★補助動詞　二つの「給ふ」

「　　」語＝四段　　は　ひ　ふ　ふ　へ　へ

「　　」語＝下二段　へ　へ　（ふ）　ふる　ふれ　（へよ）

※終止形と命令形の用例はほとんど見られない。

○「給へ」の場合→「　　」（＝活用形）確認。

（例）思ひ給へず

○「**謙譲**語の給ふ」の特徴

①「　　」・「　　」で使用。

②「　　」・「　　」・「　　」・「　　」にしか付かない。

③主語は「　　」。

④訳は「～　　」・（「～　　」）

⑤敬意の方向＝**聞き手**に対する敬意

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「心地し①はべるに、…」「～いかに見②たてまつり③たまはん」の傍線部①～③の敬語の種類を、それぞれ後の中から選べ。

a　尊敬語　　b　謙譲語　　c　丁寧語

①＝　　②＝　　③＝

問二　次の傍線部①～④の「たまへ」のうち、敬語の種類の異なるものが一つだけある。その番号を答えなさい。

「～なほたち返り紅葉もいかにと思ひ①たまへてなむ。旅寝もしつべき木のもとにこそ」とて、見出だし②たまへり。〈中略〉「さま変わり③たまへらんさまを、いささか見せよ」と、少将の尼にのたまふ。「それをだに、契りしるしにせよ」と責め④たまへば、…

問三　「まかり出でて見給へむと思ひ給へしに、年はまかり老いにたり、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　（陽成院が）御覧になると思いましたが
2　（陽成院が）御覧になるはずがないと思いましたので
3　拝見しようと思いましたが
4　見るのを諦めようと思ったのですが
5　孫が姿を現すのを期待していたのですが

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★本動詞

○覚えておくべき**尊敬語**　※**太字**の敬語動詞は**最高敬語**

敬語動詞	訳	通常語
あそばす	なさる	す
います いまそがり おはす **おはします** ます **まします**	いらっしゃる	あり・居り・行く・来
仰す のたまふ **のたまはす**	おっしゃる	言ふ
思す 思ほす **思しめす**	お思いになる	思ふ
大殿ごもる	おやすみになる	寝
聞こす **聞こしめす**	お聞きになる	聞く

敬語動詞	訳	通常語
御覧ず	ご覧になる	見る
給ふ たぶ **たまはす**	お与えになる	与ふ
しろしめす	お治めになる	治む
	知っていらっしゃる	知る
召す （※食(を)す）	御覧になる	見る
	※お治めになる	治む
	お呼びになる	呼ぶ
	※召しあがる	食ふ・飲む
	※お召しになる	着る
	お乗りになる	乗る
参る 奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○覚えておくべき**謙譲語**

敬語動詞	訳	通常語
承る	うかがう	聞く
聞こゆ	申し上げる	言ふ
聞こえさす		
申す		
奏す	***天皇に**申し上げる	
啓す	**中宮・東宮に**申し上げる	
奉る	差し上げる	与ふ
参る		
参らす		
賜（たまは）る	いただく	受く
参る	参上する	行く・来
まうづ		
まかる	退出する	行く・来
まかづ		

敬語動詞	訳	通常語
つかまつる	お仕えする	仕ふ
つかうまつる		
侍り		
候ふ		

＊上皇（譲位した天皇の称）や法皇（出家した上皇）に申し上げる際にも使用する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○覚えておくべき**丁寧語**

敬語動詞	訳	通常語
侍り	あります・おります	あり・居り
候ふ		

問四　「あな苦しと思して、…」の傍線部のよみがなを記せ。

問五　「心もとながり聞こえさせ給へれど、…」「いまはと思しなしたる御心…」の傍線部ア、イの敬語の種類をそれぞれ答えよ。

ア＝

イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「不覚におほとのごもりぬ。」の現代語訳として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　不意にお隠れになった
イ　正体なくお眠りになった
ウ　なかなか寝つけなかった
エ　気づかずにお帰りになった
オ　突然意識をお失いになった

問七　「天道もこれをぞ恵み給ふらん」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次のア～オの中から一つ選べ。

ア　名詞＋尊敬の四段活用動詞の連体形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形
イ　名詞＋謙譲の下二段活用動詞の終止形＋現在推量の助動詞の終止形
ウ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の終止形
エ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋現在推量の助動詞の連体形
オ　マ行四段活用動詞の連用形＋謙譲の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　次の波線部ａ〜ｃの説明として最も適当なものを、後の１〜４の中から選べ。（同じ記号を二度以上用いてもよい。）

「父の年八十に罷り余りたるは。『いたう腹を立て、逃げむを追ひ候はむ程、倒れもこそ仕れ』と思ひ給へて、打たれ臥して候ひつるなり」と答へつれば、…。

１　将達を敬う尊敬表現　　２　将達を敬う謙譲表現
３　将達を敬う丁寧表現　　４　公助を敬う尊敬表現

ａ＝　　ｂ＝　　ｃ＝

問九　次の傍線部（ア）・（イ）の説明として最も適当なものを、後の１〜５の中からそれぞれ一つ選べ。

「いとありがたく侍りけれ。」
「よき歌つかうまつれ」とおほせらるる

１　尊敬の本動詞　　２　謙譲の本動詞　　３　丁寧の補助動詞
４　丁寧の本動詞　　５　謙譲の補助動詞

（ア）＝　　（イ）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★２種類ある敬語本動詞

○覚えておくべき**尊敬語**

敬語動詞	訳	通常語
参る 奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

○覚えておくべき**謙譲語**

敬語動詞	訳	通常語
奉る （参る）	差し上げる （参上する）	与ふ （行く・来）
侍り 候ふ	お仕えする	仕ふ

○覚えておくべき**丁寧語**

敬語動詞	訳	通常語
侍り 候ふ	あります・おります	あり・居り

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●本動詞の「奉る」と「参る」→「　　」か「　　」。

「　」
- 「　」お召しになる
- 「　」召しあがる
- 「　」お乗りになる

「　」＝「　　」「（「参る」のみ）」

〈例題一〉 次の傍線部を現代語訳せよ。

① 簾すこしあげて、花<u>奉る</u>めり。

② 右大弁の子のやうに思はせて率て<u>奉る</u>。

③ ほかにて酒など<u>参り</u>、酔ひて…。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●本動詞の「侍り」と「候ふ」→「　　」か「　　」。

「　」＝あります・おります

「　」＝「　　」

※ 貴人に／貴人がいる場所に ＋ 侍り／候ふ ＝「　　」の本動詞

問十　次の傍線部「侍りて」の意味として最適なものを、後のア〜オから選べ。

「悦[*1]は、近衛殿[*2]（このゑどの）（応山公）に侍りて、筆法を学び奉りけり。」

＊1　悦＝本阿弥光悦。安土桃山時代から江戸時代初期の書家・工芸家。

＊2　近衛殿＝江戸時代初期の公家・近衛信尋（のぶひろ）。後陽成天皇の皇子で、近衛家を継ぎ関白となる。優れた書を残す。

ア　取り入って　　イ　警護を任されて　　ウ　気に入られて

エ　お仕えして　　オ　期待されて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★敬意の方向

●**「誰から」**→敬語の「　　　」確認。

○**地の文**＝「　　　」から。

○**会話文**＝「　　　」から。

●**「誰へ」**→敬語の「　　　」確認。

○　**尊敬語**＝　**主体**（～　・　）へ

○　**謙譲語**＝　**客体**（～　・　）へ

○　**丁寧語**→敬語の「　　　」確認。

地の文＝「　　」へ
会話文＝「　　」へ

★敬語の重なる順番＝

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕 次の傍線部は誰から誰への敬意か答えよ。

帥殿(そちどの)は、常に入道殿に負け①奉らせ給ひてぞ、まかでさせ②給ひける。

①　　から　　へ

②　　から　　へ

問十一 「ありのままに奏聞す。」の傍線部について、この言葉は誰に対する敬意を表しているのか。次の選択肢の中から選べ。

1　殿守のとものみやつこ　　2　奉行の蔵人　　3　主上　　4　聞き手　　5　語り手

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十二講　敬語

① 次の「たまふ」に関する説明文の空欄 A 〜 F に入る最も適当なものを、それぞれ後のア〜カの中から選びなさい（同じ記号を何度使ってもかまいません）。

「たまふ」は、四段活用の場合は A の意味で、下二段活用の場合は B の意味となる。四段活用の場合は動詞としても C としても自由に用い、地の文、 D ともに無関係に用いる。下二段活用の場合は多くは「思ふ」「見る」「聞く」に続く E としての用法にほぼ限られ、 F に集中して用いられる。

ア　謙譲　　イ　尊敬　　ウ　補助動詞　　エ　会話文　　オ　地の文　　カ　助動詞

A＝　　B＝　　C＝　　D＝　　E＝　　F＝

② 「とどめ奉り（ア）」「思し（イ）」は、それぞれどの種類の敬語か。最も適当と思われるものを、それぞれ次の中から選べ。

1　尊敬語　　2　謙譲語　　3　丁寧語

ア＝　　イ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「仕うまつり」という言葉の機能について、次のア～オのうちから最適なものを一つ選べ。

ア　尊敬　　イ　謙譲　　ウ　丁寧　　エ　婉（えん）曲　　オ　使役

④次の波線部（ア）～（ウ）の敬語の種類は、後のA～Cのいずれか、記号で答えよ。

「堀川に（ア）おはしますが、明日、陸奥へ御下り（イ）候ふが、…」
「必ず御迎ひを（ウ）参らせ候ふべし。」

A　尊敬語　　B　謙譲語　　C　丁寧語

（ア）＝　　（イ）＝　　（ウ）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　模範解答

〔例題一〕　ワ行上一段活用

問一　イ

問二　①　捕らふ・c・カ

②　なし・h・イ

③　あやしげなり・f・エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　模範解答

問一　こ　**問二**　ざり　**問三**　A　ア　B　イ　**問四**　ハ行・四段活用・終止形

問五　しか　**問六**　他の用例は〔**過去**〕の助動詞だが、ここは〔**詠嘆**〕の助動詞である。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　模範解答

〔例題一〕

①　月も暗うなり、雨も降り出でぬべきに、…
終止形

②　御簾の内へさし入れて出でられにけり。
連用形

③　三人まで同じ様に恐れぬるに、…
連体形

※　細かい解説をさらにしておくと、①〜③の上が、全て下二段型で活用するので全部未然形の可能性もありますが、連用形の可能性ももちろんあるので、連用形と仮定して、下の語からの活用形なども考慮して、おかしくなければ、助動詞の「ぬ」で、「上が連用形だった」と断言するのが正しい手順。

ちなみに③を「恐れ」を未然形、「ぬ」を打消「ず」の連体形と考えた人がいたならば、やはりその下の「る」の接続は「未然形」なので、「ず」の連体形の可能性は消せるので、「ぬる」で一語と考えるしかない。

〔例題二〕　①　強意　②　完了　③　完了　④　強意　⑤　強意

問一　i　a　イ　b　オ　ii　a　キ　b　ウ

問二　ア　完了の助動詞「ぬ」の命令形
イ　打消の助動詞「ず」の已然形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　模範解答

〈例題一〉 ①自発　②尊敬　③自発　④受身　⑤可能　⑥受身

〈例題二〉 ①尊敬　②使役　③使役　④尊敬　⑤使役

〈例題三〉 ①エ　②ア　③ウ　④ア

問一 Ⅰア　Ⅱウ

問二 ぬ…「ず」・打消　し…「き」・過去　られ…「らる」・自発

問三 1

問四 4

問五 1

問六 ク

問七 過去の助動詞「き」の未然形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　模範解答

〔例題一〕　①　意志　②　推量　③　婉曲　④　意志　⑤　仮定　⑥　適当（勧誘）　⑦　推量

〔例題二〕　①　現在原因推量　②　現在推量　③　現在推量　④　過去原因推量　⑤　現在推量

問一　ア

問二　打消推量

問三　イ

問四　A　らむ　B　けむ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　模範解答

〈例題一〉 ① ウ　② ア　③ ウ　④ ウ　⑤ イ

〈例題二〉 ① 推量　② 適当　③ 打消意志　④ 当然　⑤ 禁止　⑥ 命令　⑦ 適当

〈例題三〉 ① 年老いるまで生きていたら、本当にどれぐらい目に見えない鬼神をもきっと動かし（＝感動させ）ただろうに。

② どのようにしようかしら

問一 1

問二 イ

問三 カ行四段活用動詞「吹く」の終止形と現在推量の助動詞「らむ」の連体形

問四 a

問五 c

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　模範解答

〔例題一〕　①　断定　②　存在　③　（伝聞・）推定　④　断定

問一　D

問二　③

問三　(1)　A　(2)　C　(3)　D

問四　A　⑥　B　②

問五　5

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　模範解答

〈例題一〉
① し…「き」　② む…「む」
③ まほしけれ…「まほし」　④ ける…「けり」　⑤ れ…「り」

〈例題二〉 3

問一 ウ
問二 2
問三 1
問四 ア
問五 悪くはないと思い申し上げたけれど、
問六 イ
問七 風邪などを引きなさったら大変だ
問八 イ
問九 イ
問十 うとも
問十一 1

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

〔例題一〕　①ア　②エ　③イ　④ウ

〔例題二〕　①エ　②イ　③オ　④ア　⑤ウ

〔例題三〕　①ウ　②ア　③イ

問一　③

問二　エ

問三　②

問四　２

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　模範解答

〔例題一〕Ａ（かＣまではここまでで絞れる。）

問一　イ

問二　５

〔補足〕**終助詞「なむ」**は、「助詞」で助動詞ではないが、打消の助動詞「ず」に接続する場合は、**補助活用の未然形「ざら」に接続**する。「ざら」は補助活用なので、助動詞がくっついていると考え、下の「なむ」＝完了（強意）の助動詞「ぬ」＋推量系の助動詞「む」だと考えた人がいたかもしれないが、その場合は**上が絶対に連用形**であるので（完了の接続は連用形）、「ざりなむ」となっていないとおかしい。

打消「ず」の活用表に未然形「ず」はない、と考えられていたこともあることや、「ずなむ」にすると、打消「ず」＋係助詞「なむ」との区別も紛らわしい、など理由を書きだすといろいろありますが、「ざらなむ」の「ざら」＝「未然形」だから、「なむ」＝「他者願望の終助詞」と、ここはもう「補助活用の用法」には目をつぶって**「未然形接続」にだけ注目して判断**したほうが早いです。ちょっと邪道ですが、入試ではこちらをオススメします。

問三　ｘ　な　ｙ　そ　**問四**　Ａ　**問五**　ニ

問六　アはサ行変格活用動詞「す」の連用形で、イは過去の助動詞「き」の連体形。

〔補足〕イの上の動詞「聞こゆ」は下二段活用なので、「聞こえ」だと未然形もありえるが、下二段動詞の未然形に接続する「し」は存在しないため、**連用形**の「聞こえ」だと判断できる。

問七　な

問八　①　**問九**　ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

〔例題一〕①イ　②ウ　③エ　④ア　⑤イ

〔例題二〕①ウ　②ア　③イ

問一　カ

問二　エ

問三　aイ　bオ　cウ　dエ　eア

問四　6

問五　4

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　模範解答

〈例題一〉　①　差し上げる　②　（お）～申し上げる　③　お飲みになり（召しあがり）

〈例題二〉　①　作者（から）入道殿（へ）　②　作者（から）帥殿（へ）

問一　①　c　②　b　③　a

問二　①

問三　3

問四　おぼ

問五　ア　謙譲語　イ　尊敬語

問六　イ

問七　エ

問八　a　2　b　3　c　2

問九　（ア）3　（イ）2

問十　エ

問十一　3

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第一講　動詞・形容詞・形容動詞

〈解説〉

① **活用形＝下**を確認。下が「ども」で、「**ども**」の上は**已然形**。よって、正解はオ。

② 「心得（こころう）」は「活用の行」を覚えておくべき動詞。**ア行下二段活用**。**活用形＝下**を確認。下が「て」で、「**て**」の上は**連用形**。

③ 「死し」の基本形は「**死す**」。「死」＝「シ」は**音読み**。「**漢字一音の音読み＋す**」で**サ行変格活用**。よって、正解はオ。

④ 「侍る」の基本形は「**侍り**」で**ラ行変格活用**。ラ変動詞は「**あり**」「**居（を）り**」「**侍り**」「**いまそかり**」。eの「ある」が「あり」の連体形。よって、正解はe。

⑤ 形容詞の「**語幹用法**」。「**AをBみ**」＝「**AがBなので**」。よって、正解は5。

〈解答〉

①　オ　②　1　ア　2　オ　3　イ　③　オ　④　e　⑤　5

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二講　助動詞(活用と接続)／「き・けり」／「ず」／「たり・り」

〈解説〉

① 「来」の「読み」ということは、活用形を考える問題。**活用形**＝**下**を確認。ａの下は「べかり」。「〜**かり**」と活用しているので、**形容詞型**で活用する助動詞。すなわち、**終止形**が「**べし**」。「**べし**」は**終止形接続**の助動詞。「**来**」は**カ行変格活用**なので、終止形は「く」。よって、ａの正解は3。
　ｂの下は「む」。「**む**」は**未然形接続**の助動詞。カ変の未然形は「こ」。よって、ｂの正解は1。

② 「ず」の活用の問題。**ふさわしい形**＝**活用形**＝**下**を確認。Ａの下は「、」。「、」の上は**連用形**。「ず」の連用形は「**ず**」と「**ざり**」の二つあるが、**「ざり」の下には助動詞がつく**。よって、Ａの正解はア。
　Ｂの下は「仮寝」＝体言。「**体言**」の上は**連体形**。よって、Ｂの正解はウ。

③ 「しか」＝**過去**の助動詞「**き**」の已然形。よって、正解はカ。

④ 問題文の傍線部「けり」は、「**なりけり**」の「けり」で「**詠嘆**」。2は和歌。**和歌中の「けり」は詠嘆**。よって、正解は2。

〈解答〉

① ａ　3　ｂ　1

② Ａ　ア　Ｂ　ウ

③ カ

④ 2

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第三講　「つ・ぬ」／「ぬ」・「ね」の識別

〈解説〉

① 波線部「ぬる」＝**完了**の助動詞「ぬ」の連体形。よって、正解はカ。

② 「ぬ」の識別。「**上**」（＝接続）を確認すると、アは「なり」＝ラ行四段活用**連用形**。よって、**完了**。イは「おどろおどろしから」＝形容詞シク活用**未然形**。よって、**打消**。ウは「うちとけ」＝カ行下二段活用。**未然形、連用形が同形のため、接続からの判断は不可**。が、たとえば、先にオを考えると、「忍ば」＝バ行四段活用**未然形**。よって、**打消**。設問が、「**一つだけ種類の異なるもの**」を選ぶ問題なので、正解がアとわかる。迷ったなら、先にわかる簡単なものから考えていくのも、一つの手。ちなみに、この問題であれば、「**下**」（＝活用形）を確認したほうが早い。アは「。」。残りは全て「ほど」「さま」「ほのほ（＝炎）」「こと」で「**体言**」である。よってアのみ**完了**。残りは**打消**。

③ 「ぬ」の識別。「**上**」（＝接続）を確認すると、イの「見え」がヤ行下二段活用動詞「見ゆ」なので、**未然形、連用形が同形で判断不可**だが、他が全て四段活用の**連用形**なので、ア・ウ・エは**完了**とわかる。よってイだけが打消とわかるので、正解はイ。

〈解答〉

① カ　② ア　③ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第四講　「る・らる」／「る」・「れ」の識別／「す・さす・しむ」／「せ」の識別

〔解説〕

① 傍線部「るる」は**a段**に付いており、「**る**」の連体形。上が「思ひ知る」で**知覚動詞**。よって「**自発**」の意味。

② 「る・れ」の識別。**上の音**が「へ」で**e段**なので、波線の助動詞は完了「**り**」。よって、正解は3。

③ 「る・れ」の識別。**上の音がe段**。ただし「け」なので、上が「四段動詞の已然形」かどうかを確認。「描く」は四段動詞なので、完了の助動詞「**り**」。が、選択肢に完了がないので、もう一つの意味の「存続」の5が正解。

④ 「る・れ」の識別。**上の音がe段**。ただし、「**け**」なので、③と同様に、上が「四段動詞の已然形」かどうかは確認すること。「**生く**」は**四段動詞**なので、完了の助動詞「**り**」。上がe段は2と4。2は「けり」の連体形の一部。よって、正解は4。

⑤ 傍線部は、尊敬・使役の助動詞「さす」の連用形。**真下**に**尊敬語**（＝給は）**があるので、上を確認**。「**人に**」**がない**ので**尊敬**。よって、正解はア。

⑥ 「せ」の識別。**上**が**未然形**（＝**a段**）なので、尊敬・使役の助動詞「す」の連用形。**真下**に**尊敬語**（＝たまふ）**があるので、上を確認**。「**人に**」**がない**ので**尊敬**（※「春日殿」は場所）。よって、正解は5。

〔解答〕

① ウ　② 3　③ 5　④ 4　⑤ ア　⑥ 5

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第五講　「む・むず」／「じ」／「らむ・けむ」

〈解説〉

① **文中**の「**む**」は「**仮定・婉曲**」。「む」の**下**が**体言**なので「**婉曲**」。よって、正解は７。

② **上**が「たり」の**未然形**なので、この「ん」は「**む**」。**文中**の「む」で、**下**が**体言**。よって、正解は７。

③ 傍線部は、**過去推量**の助動詞「けむ」の已然形。文中にあるので、厳密に言えば「過去の伝聞・婉曲」だが、ア・イは時制に触れていないので×。「けむ」には「過去の詠嘆」の意味はない。よって、正解はウ。

〈解答〉

①　７　　②　７　　③　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第六講　「らむ」の識別／「べじ・まじ」／「まし」

〔解説〕

① まず、「らむ」の識別。**上**が「ず」で**u段**なので、**現在推量の「らむ」**。よって、1は×。次に「むず」か、「む」と「ず」を分けるかについて、「ず」の上は未然形だが、「む」に未然形は存在しない。よって、分けることは不可の為、2と4も×。正解は3。

② どちらも「らむ」の識別から考える。アは**上**が**u段**なので、「**らむ**」で**一語の助動詞**。イは**上**が**e段**なので、「ら」と「む」に分かれる**助動詞＋助動詞**。アの動詞は「侍る」（＝「侍り」）なので**ラ変**。よって、正解は3。イの動詞は「敷け」で「敷かない」となるから**四段**活用。もしくは、助動詞「**り**」の**上**は**サ変**か**四段**のみのため、必然的に正解は2。

③ まず（2）の活用形を考える。活用形は**下**を見て考える。「。」なので**文末**だが、入試問題で文末の場合は、大体**上**に**係助詞**か**疑問副詞**があるので、まず上をざっと確認すること。この場合も、やはり「**いかが**」と疑問副詞があるので、文末を**連体形**にする。よって、（2）の正解はエ。次に（1）だが、連体形はウかオ。オ「**べかる**」は**下**に**助動詞**が付く。よって、（1）の正解はウ。

④ 下に**打消**「ず」があるので「**可能**」となる。よって、正解は2。

〔解答〕

① 3　② ア 3　イ 2　③（1）ウ　（2）エ　④ 2

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第七講　2つの「なり」／「なり」の識別／その他の助動詞

〔解説〕

① 「なり」の識別。**上**を確認すると、ヤ行下二段活用動詞「聞こゆ」の**終止形**。よって**伝聞推定**のカが正解。

② ウは「**あ＋なり**」の形なので、**伝聞推定**の「なり」。他は、**体言**や**連体形**に接続しているので、**断定**の「なり」。よって、正解はウ。

③ A「めり」は、「～**ようだ**」と訳す**推定・婉曲**の助動詞。よって、Aの正解はイ。B「なり」は、**上**が**体言**なので**断定**の助動詞。よって、Bの正解はウ。

〔解答〕

①　カ　②　ウ　③　A　イ　B　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第八講　係助詞／間投助詞／接続助詞(1)

〔解説〕

① 「**やは・かは**」は**反語**が多い。よって、正解はエ。

② この問題は「結びの省略」というよりは、「**係り結びの法則**」の問題。「省略」だと、全ての選択肢に「あり」が入っているが、「**や**」の結びは**連体形**なので、正解は１しかない。

③ 「結びの省略」の問題。「**にや**」・「**にか**」の後ろには、「**あらむ**」（＝あらん）を補う。よって、正解はイ。

④ 傍線部の現代語訳の問題で、「こそ」が含まれている場合は、結びの已然形の後ろに「、」がある場合が多い。その時は、**逆接**にして訳すのがポイント。選択肢の最後が逆接になっているものは４のみ。よって、正解は４。

⑤ エのみ上が**未然形**で**仮定**条件。他は全て**已然形**で**確定**条件。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　エ　②　１　③　イ　④　４　⑤　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第九講　接続助詞⑵／「て」の識別／格助詞

〔解説〕

① **活用形**＝**下**を確認。下が「**で**」で、「**で**」は**未然形**接続。「言ふ」（＝ハ行四段活用）の未然形は「言は」。よって、正解は１。

② 格助詞「の」の単発問題は、まず「**同格**」から考えるのがポイント。「の」の下をざっと見て**連体形**を探すと「なる」が連体形。その直後に「の」の上の体言＝「男」を入れて、「の」を「で」と置き換えて訳してみる。「たいそう若くすばらしい男**で**、烏帽子・直衣姿である**男**が、物も考えられず泣きまどう様子、…」とおかしくないので、やはり同格。選択肢イも「水汲め**る**」の「**る**」が助動詞「り」の**連体形**。その直後に「の」の上の体言＝「女」を入れて訳してみる。「髪の毛が白い女**で**水を汲んでいた**女**が、前から（来て）みすぼらしい家に入った」と訳しておかしくないので、これが同格。よって、正解はイ。ちなみにロは主格、ハは連体（修飾）格の「の」。

〔解答〕

①　１　　②　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十講　終助詞／副助詞／「し」の識別／呼応の副詞

〔**解説**〕

①　**未然形**＋「ばや」＝自己**願望**の終助詞。よって、正解はエ。

②　「**禁止**」を表す終助詞で、動詞「おとす」の上に副詞「**な**」があることから、「**な〜そ**」の構文。よって、正解はイ。

③　副助詞「だに」があるので、**下を確認**すると「**ん**」＝「**む**」の助動詞があり、「**と**」**の上の**「**む**」なので「**意志**」の可能性が高い。したがって、この「だに」は「**限定用法**」。よって、「〜だけは」となっている3が正解。ちなみに、「だに」のもう一つの用法「類推＝さえ」で訳している選択肢はないので、消去法で考えても「だに」の訳がきちんと訳出されているものは3しかない。

④　同じく副助詞「だに」の問題。下に自己**願望**の終助詞「**てしがな**」があるので、**限定用法**の「だに」。よって、「せめて〜でも」と訳出されているエが正解。

⑤　「し」の**上が連用形**。さらに**下が体言**。したがって、この「し」は**過去**の助動詞の「き」の**連体形**。よって、正解はウ。

⑥　**打消と呼応**して「**不可能**」の意味を表すものは「**え**〜打消」。よって、正解は4。

⑦　傍線部「**さらに**」が、「食はず」の「**ず**」＝打消と呼応して、「**全く〜ない**」の全否定。よって、正解はイ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑧「咲く」の**未然形**「咲か」に付いている「**なむ**」は他者**願望**の終助詞。したがって、この「いつしか」は願望と呼応して「**はやく**」という意味になる。よって、正解は２。

〔解答〕

①　エ

②　イ

③　３

④　エ

⑤　ウ

⑥　４

⑦　イ

⑧　２

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別

〔解説〕

① ラ変「あり」の**未然形**＋なむ＝**他者願望の終助詞**「なむ」

② 「良かり」は形容詞「良し」の**連用形**で、さらに「**か＋ラ変**」の補助活用。したがって**下に助動詞が付く**。よって、正解は５。

③ 問題文中「に」は、「**にや**」の「**に**」で**断定**。選択肢１が形容詞「なし」の**連体形**「なき」に接続しており、下に「**あり**」があることから、これが断定の「に」。

④ 問題文中「ぬ」は、**連用形に接続**しているので**完了**の助動詞。選択肢アの「に」が、**上が連用形**で、**下に**「**けり**」。よって、正解はア。

⑤ 選択肢エはナ変動詞「往ぬ」の連用形の活用語尾。他は連用形に接続する完了の助動詞。

〔解答〕

① ３　② ５　③ １　④ ア　⑤ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十二講　敬語

〔解説〕

① **四段**活用の「たまふ」は**尊敬**。四段の「たまふ」は本動詞と補助動詞がある。**下二段**活用の「たまふ」は**謙譲**。こちらはほとんどが**補助動詞**で、**会話文中**や**手紙文中**のみで使用される。

② アは動詞に付いているので補助動詞。「**奉る**」は**謙譲の補助動詞**。よって、正解は2。イは本動詞で「おぼし」と読んで尊敬語。よって、正解は1。

③ 「仕うまつる」は謙譲語。よって、正解はイ。

④ （ア）「おはします」は尊敬語。（イ）「候ふ」は丁寧の補助動詞。（ウ）の本動詞「参る」は**尊敬**と**謙譲**の二種類あるが、**衣食乗関係**ではないので、この場合は**謙譲語**。

〔解答〕

① A イ　B ア　C ウ　D エ　E ウ　F エ

② ア 2　イ 1

③ イ

④ （ア）A　（イ）C　（ウ）B

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。